

国内利用計画 (PUP : Partner Utilization Plan) について

平成 10 年 11 月 11 日
科 学 技 術 庁
宇 宙 開 発 事 業 団

1. PUP について

国際宇宙ステーション計画では、長期計画立案作業として向こう 5 年間に、宇宙ステーションで実施する利用（宇宙実験の実施等）及び運用（システムの運用・保全等）に関し、参加各機関 (NASA, ESA, CSA, STA) の利用・運用計画を統合した『宇宙ステーション統合運用利用計画 (COUP) 』の作成が、日米間 MOU に規定されている。

PUP は、各機関が予め配分された宇宙ステーションの能力（日本の場合は 12.8%）範囲内に収まるような国内利用計画として、独自に作成されるものである。PUP には、主に、年毎の打上げ／回収する実験装置名及び各機関が使用する宇宙ステーション能力の年間総量等を記述することが規定されている。

各機関からの PUP は、利用に係わる国際調整組織である利用者運用パネル (UOP) に提出される。UOP は、これらの PUP を調整し、『宇宙ステーション複合利用計画 (CUP) 』としてまとめる。更に、CUP は、運用に関して同様にまとめられた『宇宙ステーション複合運用計画 (COP) 』と併せて、COUP となり、一連の長期計画立案作業が終了する。

2. 98 年 PUP の発出方針

- ・ 宇宙ステーション組立シーケンスは、98 年 5 月の D 改訂版を基準とする。
- ・ 組立シーケンスの変更 (C 改訂→D 改訂) を受けて、JEM 与圧部打上げフライト (1J) 及び宇宙ステーション補給システム (HTV1) の打上げを 97 年に発出した PUP から変更する。

添付－1 に、98 年に発出予定の PUP 案を示す。

添付－2 に、97 年に発出した PUP を示す。

日本 国内利用計画(一次案)

1998年発出予定

日本の与圧部ペイロード(ラック数)

日本の曝露ペイロード(装置数)

	暦年	2000	2001	2002	2003
使用できる与圧部:				JEM	
日本に関係のあるユーザフライト等:			1J/A	(1J)	HTV1 HTV2
生命科学ラック#1 クリーンベンチ	(0.5)		打上	軌道上	軌道上
// 細胞培養実験装置	(0.5)		打上	軌道上	軌道上
生命科学ラック#2 未定	(1.0)				打上
微小重力科学ラック#1 温度勾配炉	(1.0)		打上	軌道上	軌道上
微小重力科学ラック#2 帯域炉	(1.0)				打上
微小重力科学ラック#3 溶液/蛋白質結晶成長実験装置	(0.5)		打上	軌道上	軌道上
// 流体物理実験装置	(0.25)		打上	軌道上	軌道上
// 画像取得処理装置	(0.25)		打上	軌道上	軌道上
ラック					
軌道上の与圧部装置ラック数:		3	3	5	
日本が使用できる与圧部数:		5.1	5.1	5.1	

	暦年	2000	2001	2002	2003
使用できる曝露部:				JEM-EF	
日本に関係のあるユーザフライト等:			2J/A	HTV2	

- #1 宇宙環境計測装置
#2 曝露部実験装置
#3 曝露部実験装置

		打上	軌道上
			打上
			打上

軌道上の曝露ペイロード数:
日本が使用できる曝露部数:

		1	3
		5.1	5.1

注) 1J/A: JEM与圧部補給区組立フライト
1J: JEM与圧部組立フライト
2J/A: JEM曝露部組立フライト
HTV: 宇宙ステーション補給機

#2 曝露部実験装置、#3 曝露部実験装置については下記の3つのうちのどれか
全天X線監視装置
光通信実験装置
超伝導サブミリ波リム放射サウンダ

日本 国内利用計画

1997年発出

日本の与圧部ペイロード(ラック数)

日本の曝露ペイロード(装置数)

	暦年	2000	2001	2002	2003
使用できる与圧部:			JEM		
日本に関係のあるユーザフライト等:			1J/A	HTV1	HTV2
			(1J)		

生命科学ラック#1	クリーンベンチ	(0.5)	打上	軌道上	軌道上
"	細胞培養実験装置	(0.5)	打上	軌道上	軌道上
生命科学ラック#2	未定	(1.0)			打上
微小重力科学ラック#1	温度勾配炉	(1.0)	打上	軌道上	軌道上
微小重力科学ラック#2	帯域炉	(1.0)		打上	軌道上
微小重力科学ラック#3	溶液/蛋白質結晶成長実験装置	(0.5)	打上	軌道上	軌道上
"	流体物理実験装置	(0.25)	打上	軌道上	軌道上
"	画像取得処理装置	(0.25)	打上	軌道上	軌道上
軌道上の与圧部装置ラック数:			3	4	5
日本が使用できる与圧部数:			5.1	5.1	5.1

	暦年	2000	2001	2002	2003
使用できる曝露部:			JEM-EF		
日本に関係のあるユーザフライト等:			2J/A	HTV2	

#1	宇宙環境計測装置			打上	軌道上
#2	曝露部実験装置				打上
#3	曝露部実験装置				打上

軌道上の曝露ペイロード数:			1	3
日本が使用できる曝露部数:			5.1	5.1

注) 1J/A: JEM与圧部補給区組立フライト
 1J: JEM与圧部組立フライト
 2J/A: JEM曝露部組立フライト
 HTV: 宇宙ステーション補給機

#2 曝露部実験装置、#3 曝露部実験装置については下記の3つのうちのどれか
 全天X線監視装置
 光通信実験装置
 超伝導サブミリ波リム放射サウンダ